

令和5年度 八代市議会経済企業委員会 視察報告書

■視察日程

令和6年1月22日（月）～24日（水）

■視察先

1月22日 午前 岡山県岡山市

1月22日 午後 岡山県瀬戸内市

1月23日 午後 山口県岩国市

■視察参加者

【委員会】委員長	古 嶋 津 義
副委員長	木 村 博 幸
委 員	上 村 哲 三
委 員	金 子 昌 平
委 員	谷 口 徹
委 員	中 山 諭扶哉
委 員	村 川 清 則

【随 行】農林水産部長	尾 崎 行 雄
議会事務局	島 田 義 信

■視察先及び目的

1 岡山県岡山市

『就農サポートセンターについて』

農業の担い手不足は、本市に限らず、多くの自治体が抱える共通の課題である。岡山市においては、就農サポートセンターを設置しており、専門の相談員を配置し、就農に向けた事業化のアドバイス、就農計画の作成支援、研修のコーディネート及び各種補助金の活用支援などを行っている。

本市においては、基幹産業である農業の振興のため新規就農者の相談・支援業務や農業全般の相談・支援業務に対応するため、営農支援室が設置されていることから、岡山市の事例を参考にし、今後の委員会活動に生かすことを目的に視察を実施する。

2 岡山県瀬戸内市

『有害鳥獣被害の概要とその対策について』

本市においても、近年、中山間地域においては、イノシシや鹿などによる農作物等の被害が、増加傾向にある。しかし、捕獲・駆除を行う担い手が不足しており、今後の視察や地域との連携、行政の関わり方を検討する必要がある。

瀬戸市においては、耕作放棄地の増加などに伴い、鹿、ヌートリア、カワウなどの鳥獣被害が拡大しており、被害防止対策として有害鳥獣被害柵設置事業による支援事業等を実施されていることから、瀬戸市の事例を参考にし、今後の委員会活動に生かすことを目的に視察を実施する。

3 山口県岩国市

『岩国市における観光振興施策について』

昨今の地方の観光振興施策においては、新型コロナウイルス感染症の5類感染症への移行により、大きな変化が生じている。それに伴い、国内観光客や外国人観光客も戻りつつある。

岩国市においては、令和5年度に産業振興部の中にシティプロモーション課を新設し、観光振興のみならず、移住・定住の推進、イメージ戦略構築などの取組を推進されている。

本市においてもさらなる観光客の誘客に向けて、様々な観光振興施策に取り組んでいることから、岩国市の事例を参考にするとともに、今後の委員会活動に生かすことを目的に視察を実施する。

岡山県岡山市

1 視察日時 令和6年1月22日（月） 10:30～12:00

2 調査事項 『就農サポートセンターについて』

3 調査内容（説明内容）

※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q 1 農業人材マッチング促進支援事業について、保険料と保証内容を教えてください。

A 1 保険料については、岡山市で補助する内容は、農業者の方がお支払いされた保険料の2分の1、または、3万円のいずれか少ない額を助成している。

農家さんが負担する額は、保険会社によって異なるが、JAにお願いをする場合、前年度の所得が1000万円を超える方で、約1万円ちょっととなる。農家の方は旅行に行つて事故を起こした場合も、保証の対象となる。それ以外の方は、農業アルバイトに来る時から帰るまでの間、保証をする内容となっている。

法人など大きな農家の方は、既に労働災害保険に加入されているので、その場合は、すぐにマッチングに登録が可能となる。

Q 2 就農相談を東京、大阪などで行っておられるが新規の就農者数に関して、Iターン、Uターンにつながっているのかの点から、就農者数の市内外の内訳を教えてください。また、農地を購入できない場合の対応はどうなるのか。

A 2 市内在住で新規の方、県外から来られる方、跡取りの方と色々なパターンがあるが、県外から、就農につながるのは1～2人。故郷が岡山の方が、多い。誰かしら知り合いがいて、岡山に馴染みがあるので、岡山に帰ってきたという内容が多い。馴染みが全くない方が、1～2人、岡山のシャインマスカットを作りたいという強い要望の方もおられる。

農地の件については、国制度の場合は受け入れ農家さんが中間管理機構を介して、受け入れ農家さんの名義で土地を借りられ、植え付けをすることとなり、1～2年後に名義を切り替えることが多い。岡山県の場合は、農地が用意できる方の調査を年間1～2回行っている。シャインマスカットを作りたいという方がいた場合、その地域に住めますかという調査から入っていき、自分の好きな場所で作る場合は、技術の相談ができる方を紹介する。それから面接後、受け入れを行っていくという形にしている。

Q 3 就農希望者の年齢層はいかがか。

A 3 年齢層は、30代から40代後半まで。50歳を超えると事業に乗っていけないので、自己資金で対応できるかどうかとなる。30代の方でないと、40後半であれば、一人前までになるまでに期間が必要となるため、自己資金に余力がないと厳しい。40代であれば、国の事業で2年間の研修があるが、1年間で切り上げて営農に入っていく形で、場所の選択肢が狭まる。受け入れ農家さんは、奥さんに手伝ってもらって考えは持たず、40～50代になって、自分でできる範囲で行うようにとよく言われる。

Q 4 小規模農家が多い中で北区と中区に関して、大規模化、農地の集積化はいかがか。八代市では、農家を辞めた方から農地をお借りして、組織化することが行われているが、そういった支援をされているのか。

A 4 中区は農用地がないので、農家の方の意識が高くない。認定農業者の方も北区、南区、東区の方が多い。現状、支援を求める声は、農家の方からは聞こえてこない。農地集積に関しては、地域計画で行っており、南区は地域計画が完了している。

Q 5 農業人材マッチング促進支援事業について、JAさんと求職者をマッチングさせるということで、求職者の方にはこのアプリを知っていただくことが必要と思うが、アプリを知ってもらうための取組とマッチング件数を教えていただきたい。

A 5 農家の方がアルバイトの募集を出すと、5～10件の応募がある。これ以上宣伝を行うと、募集案件が少ないため、PRをすることが無駄になってしまうことから行っていない。国の方も、農業人口を増やすため、この事業に取り組んでいるが、企業が知名度を上げるために、企業を押しして副業として、農業に向けて、推進しているのが現状。農家の方は、応募者の中から選ぶことになり、評価をする形になる。岡山は、零細農家が多いことから、案件が少ない。違う市外からアルバイトに来る方もいらっしゃる。農家の方も、応募者もアプリの利用料は無料のため、大きな農家をお持ちの行政の方であれば、効果的に利用できると思う。成約すると農業者さんと直接やり取りすることとなる。

※別添資料

- ・調査事項（回答）

※視察の様子



岡山県瀬戸内市

1 視察日時 令和6年1月22日（月） 15:00～16:30

2 調査事項 『有害鳥獣被害の概要とその対策について』

3 調査内容（説明内容）
※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q1 ヌートリアの概要と従事者講習について、御教示いただきたい。

A1 ヌートリアは、大きなネズミで、原産地がアメリカ。もともと毛皮用で輸入されたものが野生化し、瀬戸内市を含めた岡山県全域において、被害が出ている。鳥獣管理法では、ネズミとモグラ以外は、捕獲できないが、瀬戸内市では、ヌートリアを特定外来生物に指定している。国から認可を受ければ、市に権限移譲されることから瀬戸内市においては、農業従事者の方が講習を受けていただいき、被害防除に取り組んでいただいている

Q2 鳥獣被害対策実施隊30名中、市職員9名ということで、御本人の希望か。それとも、担当者が従事されているのか。また、異動された場合は、増えていくになるか。

A2 9名というのは、産業振興課の全職員で、担当課全員が実施隊となる。人事異動に伴い、名前は変わっていく。

Q3 貴市と八代市では、鳥獣被害も違う。八代市の場合、海岸から田畑と広範囲に渡る。令和2年7月豪雨災害で坂本町も家屋が少なくなってしまったため、害獣が民家に降りて来ている状況。貴市の防護柵設置の取組はいい取組だと思う。八代市においては、個人で設置補助の申請ができないことから、進んでいない現状にある。また、鳥獣被害対策実施隊について、銃器の割合はどうなっているのか。

A3 瀬戸内市の場合は猟友会があり、その中に駆除班がある。その駆除班が猟期以外は、許可を出していないので、猟友会全体が捕れるわけではない。猟期中が過ぎた場合に、実施隊30人で行っている。その中には、銃を持っている方も罠を持っている方もおり、割合は半々程度。

Q 4 お配りいただいている害獣被害防止パンフレットは素晴らしいと思うが、これは執行部で作成されたのか。また、罾についても箱罾、くくり罾がとあると思うが、本市においては、工業高校が猟友会と共同で箱罾を作成し寄贈いただいているという取組があるが、貴市ではいかがか。

A 4 セミナーの講師の方の参考文献を基に執行部で作成した。駆除班が、現場に出向き、罾を設置する前に、防止柵設置を進言しており、浸透してきたと思う。

現在、市内には工業高校がないことから、普通高校のみであり、現在は箱罾を寄贈いただいている事例はないが、その他の市の事業には、様々な協力をいただいている。

Q 5 御説明の中で、飛躍的に捕獲頭数は伸びているが、山間部の空き家の状況はいかがか。私自身は、平野部に住んでいることからイノシシや鹿の被害はないが、イタチ、タヌキ、ハクビシンなどが空き家に入り込んでしまい、人が住めない状態になってしまう状況がある。

A 5 空き家の調査については、危機管理課が調査を進めている。空き家をほっておくわけではなく、特定空き家に指定できれば解体等の措置を行うことができるため、なるべく空き家がでないよう、対策を行っている。また、移住者向けに空き家を紹介する取り組みも行っている。それでも、山間部も空き家が増えているが鳥獣被害が出ているという情報は、今のところない。

※別添資料

- ・ 調査事項（回答）

※視察の様子



山 口 県 岩 国 市

1 視察日時 令和6年1月23日（火） 13:30～15:00

2 調査事項 『岩国市における観光振興政策について』

3 調査内容（説明内容）
※別添資料のとおり

4 主な質疑応答

Q 1 シティプロモーションを始められたということで、岩国観光プロモーション推進協議会との連携はいかがか。

A 1 岩国観光プロモーション推進協議会は外部団体で、岩国市には観光協会が5つ存在している。そこで、一括的なプロモーションができないということが課題であると、ビジョンをつくる策定員会の中で問題となった。今までのいきさつもあって、合併が難しいことから、新しい組織が必要ということで、当時、観光プロモーション戦略協議会が作られた。この構成メンバーは、各観光協会と商工会議所内にある文化観光協会とされた。当時、ANA 総合研究所から1名派遣をいただき、観光マネージャーとして招聘し、支援員2名を公募し、市全体のプロモーションをやっていこうとした。当時の支援員の方が継続的にいらっしゃり、市から約800万円の補助金を支出し、岩国市の観光振興課と連携し、それぞれの観光協会との連結役になるように取組を進めている。組織の合併にはいたってない中、今後、協議会をどのようにしていくかが、これからの課題である。

Q 2 ブラタモリの話があったが、この件について、NHK が独自に企画をして御市に協力を求められたのか、また、番組内容で錦帯橋は、武家屋敷と岩国城を結ぶ橋であったという案内があったが、城下町を生かしたプロモーションはされているのかを伺いたい。

A 2 ブラタモリについては、岩国市の観光振興課が所管となるが、フィルムコミッションの登録をして、各撮影に関しては、フィルムコミッションに申請があり、協力を行った。実際は、観光振興課が窓口となり、NHK とやり取りを行ったが、庁内連携して、説明に文化財保護課の学芸員が、タモリさんの質疑応答を行った。内容については、全てNHK の企画。錦帯橋のモデルになったのは眼鏡橋ということで取り上げられたが、地元では中国の島を橋で渡しているものをヒントにして、橋でつなぐこととなったのが、一般的には有力とされている。

眼鏡橋の話が取り上げられたのも、タモリさんが九州の出身ということもあり、錦帯橋をあのかたちで建設する1～2年前に、眼鏡橋を見に行ったという歴史ものこっているのを参考にしてないわけではないという学芸員の見解もある。番組の構成上、そちらの方が面白いということから、その話が取り上げられた。

武家屋敷と分かれているということで、錦帯橋については、街並みを見ていただく必要があるということで、取組を進めている。過去、錦帯橋のみで来られて、立ち寄り観光であったことが課題と考えている。色々なところを歩いていただき、滞在時間が延びれば、お金が落ちるということで、今は渡った後でもロープウェイやお城、ソフトクリーム屋さんが有名だが、そちらで遊ばれる方もいらっしゃるが、渡る前も歩いていただきたいということで、グランドデザインを策定し、無電柱化や下水道整備などを進め、出店者の拡大の取組を行なっている。

また、岩国地区側にバス用の駐車場を整備中である。

Q 3 5つの観光協会の合併ができない弊害は何か。

A 3 岩国市観光協会については、独立した一般社団法人。他の協会については、もとの商工会の職員が兼務して事業をやられているところがあり、商工会と商工会議所も合併できないが、それぞれの協会の会費の取り方、メンバー構成があり、合併をしようとして動いていたが、現状は難しい。そのため、それぞれが活動しながら、とりまとめを行う形でプロモーション推進協議会が皆さんのジョイント役をやっている。

Q 4 インバウンドが2～3万人ということで、八代市から見たら意外と少ないように感じるが、インバウンドを増やすような対策はされていたのか。

A 4 インバウンド対策については、直接的なプロモーションはできていない。
現在の取組としては、ホームページの4ヶ国多言語化や周辺看板の多言語化に取り組んでいる。新たな看板については、日本語だけの表記をして、QRコードを付けている。
海外でも目的地を起点に調べられるので、宮島観光協会ホームページのアクセスマップに依頼をし、多言語化の錦帯橋の記事を掲載している。

Q 5 岩国市観光客動態調査報告書ということで、観光アンケート調査を非常に詳しくされているということで、調査報告ということで岩国観光ガイドボランティア協会に依頼されているが、委託費を伺いたい。また、動態調査の実施頻度を伺いたい。

A 5 岩国観光ガイドボランティア協会に業務委託により調査やガイドを行っていただいている。岩国のガイドボランティアは無償で行っている。会長も理解を持って進めていただいております、ガイドの方々も誇りを持って対応いただいている。金額については、100万円弱である。

動態調査は、毎年行っており、観光のホームページでPDFで毎年公開している。

Q 6 観光ビジョンの中のJR在来線岩国駅と新幹線の新岩国駅の距離が離れている。錦川清流線があるが、こういった鉄道を生かした観光について、どのような考えをお持ちか。

A 6 JR新岩国駅は新幹線の駅となるが、新幹線の駅が岩国駅についていたら、どんなによかったかと思う。結果論的に、離れているというところがあるが、山口県は新幹線駅がたくさんある。新岩国駅があることがすごいと言われる。結果的に岩国駅までつながっていただいてもっと栄えたということがある。

錦川清流線は、過去には岩日線というものが整備されていたが、赤字路線となることから錦町までで整備が中断された。JRから路線を残すということで、第三セクターとして、錦川清流線が錦川鉄道株式会社という形で残っている。

景観をよくて、県事業で整備した清流みはらし駅があり、滝が見えるようになっている。また、錦川駅の先に、観光列車として、土・日・祝日に「とことこトレイン」を走らせている。

※別添資料

- ・ 調査事項（回答）

※視察の様子



<< 各委員所見 >>

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【古嶋津義】

◆視察日：令和6年1月22日（月）

◆視察先：岡山県岡山市

◆調査項目：就農サポートセンターについて

(1) 就農サポートセンターの概要

平成21年1月、新規就農希望者及び新規就農者への支援体制をより強固なものにするために設置。

地域農業企画・振興室 担い手育成業務担当職員と連携し、「就農に向けた構想へのアドバイス」や「青年等就農計画の作成支援」、「研修のコーディネート」、「各種補助金支援」などに取り組んでいる。

(2) 就農サポートセンターの取組や具体的な就農支援内容
就農に関する相談やフォローアップを行う窓口となる就農サポートセンターが設置され、就農希望者に対する総合的な支援を実施。具体的な就農支援内容は、
。就農に向けた^構想へのアドバイス（栽培作物と就農地の選定など）。新規就農希望者体験研修事業（岡山市独自事業）

○就農促進トータルサポート事業。○青年等就農計画
の策定支援。○各種補助金の活用支援として新
規就農者育成総合対策・新規就農者サポート事業(岡山
市独自事業)等の支援メニューがある。

(3) 新規就農希望者の募集策

岡山市内での新規就農を希望される方を対象に、
○農業インターンシップ研修(実地での農業体験
の機会を提供する研修)○先輩就農者インタビュー
研修(就農から6~10年程度^{経過した}農作業体験談を対談
形式で伺う機会を提供する研修)。又、農業者サイト
では人手不足解消を、求職者サイトでは農業に触れる
機会の拡大や就農に向けた意欲向上を目的とした、
岡山市農業人材マッチング促進支援事業がある。

(4) 今後の課題・展望

課題としては、温室施設の老朽化があげられる。荒
廃農地を生む要因である当該問題の解消にかかる支援
を継続・拡大し、産地の活性化につながる取組が
重要。

◆視 察 日：令和6年1月22日（月）

◆視 察 先：岡山県瀬戸内市

◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

(1) 被害の概要

ニホンジカ・イノシシ・ヌートリア・タヌキ・アナグマによる農作物（水稲、野菜、果樹類）への被害が市内全域で見られる。近年は民家近辺での出没も発生。

ハシブトガラス、ハシボソガラス、ヒヨドリ、カワウ、カモ等鳥類による野菜、果樹、魚介類への被害も一部地域で見られる。

(2) 対策

○「捕獲等に関する取組」鳥獣被害対策実施隊を編成し、銃器による捕獲、追払い活動及びくくりわな、箱わなによる捕獲駆除活動を実施。捕獲補助金制度を導入している。

○「防護柵の設置等に関する取組」市内全域において、個別柵（ワイヤーメッシュ、トタン板、電気柵等）による被害防除の取組み、防護柵設置に対する

助成金制度を導入している。又、単果事業を活用して集落柵を設置し、広域的な被害防止に取り組んでいる。○「生息環境管理その他の取組」専門家を招いた講習会・セミナーを開催し、鳥獣被害対策のための環境整備の啓発を行っている。又、集落として緩衝帯整備、放置果樹除去、鳥獣の潜み場除去を実施する団体に対して、助成金制度を導入している。

(3) 捕獲実施者や地域との連携

実施隊の連携体制整備や集落一体となった広域的な防護柵設置の推進。鳥獣被害対策としての環境整備の必要性・重要性の啓発活動など。

(4) 今後の課題・展望

狩猟者の減少及び高齢化。処理加工施設の整備。生活環境に影響がでている(車両との接触事故)等が課題であり、今後はICT化を推進(少ない人数でも質を担保)

◆視察日：令和6年1月23日（火）

◆視察先：山口県岩国市

◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

(1) 観光振興施策の概要について

岩国市では、観光交流人口の拡大、観光情報の発信、体験型観光の推進、観光・交流設備の充実などに取り組んでいる。主な取り組み内容「錦帯橋の世界文化遺産登録に向けた活動の推進」「広域観光ルートの設定」「市域内観光ルートの設定」「錦帯橋のう創の保存・伝承」「観光イベントの充実」「効果的な情報発信の充実」「案内板等の多言語表記」「体験型旅行の誘致」「観光アプリケーションの充実」「観光施設の整備」等に取り組んでいる。

(2) 錦帯橋などの観光素材の活用法について

錦帯橋周辺地域におけるソフト事業として体験メニューの充実や祭り・イベントの実施、岩国城の魅力向上に関する検討を進め、錦帯橋周辺の魅力を高めることで、観光客の滞在時間の延長、宿泊客の増加をめざす。又、米軍岩国基地と連携した市内

資源調査や言語対応状況調査など、基地内
住民をモーターとして外国人視点での魅力の再発見を
行い、外国人観光客の受入態勢の整備につなげる。

(3) 南係団体や周辺自治体等との連携について
萩・津和野や県内近隣観光地とともに、世界遺
産である厳島神社(宮島)、原爆ドーム(広島)近接性
をPRし、岩国錦帯橋空港の観光利用を促し、首
都圏からの誘客を図る。観光地間のスムーズな移動
がでるよう、JRやバス会社と連携し、広島、宮島との
アクセス面での向上を図る。又、外国人観光客誘致に
向けるとは、訪日旅行者の多い台湾などの東アジアからの
誘客を図るとともに、近接する広島市や廿日市市への
欧米系外国人の割合の高さや米軍岩国基地の立地など
を活かした欧米系外国人観光客の誘致を進める。

(1) 今後の課題・展望

錦帯橋の入橋者数は年間^約70万人ですが、宿泊割合は1割
未満、日帰りの滞在時間は4時間以内が約9割であり、

滞在時間の延長、宿泊割合の増加や、^{岩田市には}錦帯橋

以外にも観光資源があるが、点状しており、連携が

不十分である。又、観光客の増加させるためにも、

近隣^と地域と連携したプロモーションを行い、広

域的な集客力を向上させる必要^{がある。}~~等、等が課~~

~~題である。~~

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 木 村 博 幸 】

- ◆視 察 日：令和6年1月22日（月）
- ◆視 察 先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

●就農サポートセンターの組織的位置づけは、産業観光局農林水産
部農林水産課内の地域農業企画・振興室内に設けてある。

●就農サポートセンターには専門的な知見を有した相談員が1名
配置され、以前はJAより職員派遣で来てもらいJAと市の仕事が
掛け持ちでの対応であったため、近年は市の会計年度職員として
市専属として業務に当たっている。この相談員の方とは説明途中
に補足等でご発言頂いたが、果樹全般・農業経営から保険の事な
ど全体的にアドバイスが出来る詳しい方が就任されていた。この
相談員の配置は岡山市の就農サポートセンターの強みと言える。

●国の補助事業等数種の事業に取り組まれているが、岡山市オリジナ
ル事業として「新規就農希望者体験研修事業」と「新規就農サポ
ート事業」の二点は非常に八代の参考になる事例である。

●農業人材マッチング促進支援事業については、一日バイトアプリ

(day Work) を使って事業を営む農業者に対して、バイトの方へ
日掛けの傷害保険を掛けるこの保険料の一部 (1/2 若しくは 3 万
円以下) を補助するもので、八代の参考になる事例である。また
この事業よりも紹介して頂いた「一日バイトアプリ (day Work)」
の方が魅力的で、このアプリは個人で無料で登録でき、しかも農
地の集合場所までグーグルマップで自動ナビで誘導してくれる優
れもの。是非、八代の農業関係者に紹介したいアプリ。

- 国の補助事業を使った就農者の定着率で岡山市は全国 1 位と紹介
が有った。これは本当に素晴らしい事で、農業経営者らや JA の組
織的な協力が有っての事だと思う。しかし、この定着率が良い背
景には国の補助事業への希望者の審査が厳しい点が挙げられる。
八代と違って岡山市の桃やブドウと言った果樹への就農希望者が
多く羨まし点はあるが、農家体験研修から始まり最後は資金と圃
場の確保が出来るまで、また就農希望が本当に経営的にやってい
けるか等、就農後のプラン迄考えての審査であり、安易に審査を
通さない旨の説明を聞いた。これは大切な考えで参考になった。

- ◆視 察 日：令和6年1月22日（月）
- ◆視 察 先：岡山県瀬戸内市
- ◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

●瀬戸内市の有害鳥獣は、イノシシ・シカその他、鳥類、白ビシン、タヌキなど。その他に八代では見かけないヌートリアがいる。

●ヌートリアは一般のハンター以外は駆除出来ないが、市が行う従事者講習を受講すれば駆除来ると説明があった。これは、特定外来生物であるヌートリアによる被害を防止するため、外来生物法に基づき県がヌートリア防除実施計画を策定し、市において防除対策を実施するもので、農地を守るため免許非保持者でもワナを使って駆除できる制度を活用した良い事例である。

●イノシシと鹿の増加要因として、農家の高齢化に伴う耕作放棄地の増加があり、後継者が遠いところに居られ、既にご家族が不明で連絡も取れない所も段々増えてきており対策に苦慮している。
この点は瀬戸内市に限らず、全国的な課題と言える。

●農作物被害増加を防ぐため瀬戸内市有害駆除実施隊（39名）が編成され駆除を行っており、一般のハンター分も含め年々捕獲頭数が増え R4 年は 2020 頭（イノシシ・シカ）の実績。また、車両と

の接触事故が 40～50 件/年と多目推移との事で、効果的な対策が無いのが課題。

●農作物被害の対応策として、防護柵で田・畑を守る事を市では第一番目に上げて取組んでいる。田畑を柵で囲ってしまい、農作物を餌として与えない事で、人里から遠ざける効果と個体数の増加を抑制する狙いがある。

●防護柵設置の補助は「個人柵」「集落柵」と設置距離が長くなるにつれ補助率が 1/4 から 3/4 迄、設置費が高額になるにつれ高額に設定されてる。

●実施隊の活動は幅広く、駆除の他に罠の貸出し、駆除についての実務的なアドバイスや駆除や被害防止策の相談を行っている。

●実施隊では駆除の ICT 化も勧めており、狩猟者の高齢化、減少化に伴う狩猟、駆除の負担軽減と効率化を目指していた。

●その他の課題として、捕獲後の処理について屠畜場や食肉処理場と言った施設が無いので以前は埋設していたが、捕獲頭数が増え埋設出来なくなり、現在は 10 k g 以下に解体して焼却場で処理して

いるが狩猟期は頭数が多く処理に苦労している。今後の課題とし

て、一時保管出来る冷凍倉庫導入を検討している。

●その他に、柵で囲った圃場の出入口ゲートに有害鳥獣を寄付けない

超音波照射装置の実証実験を行っており、一定の効果が見込まれ

る情報を得た。今後の結果をみて、八代も参考にしたいと思う。

●この超音波（ソニック）については〇〇議長より、海上のノリ網で

も使用されていて、一定の効果を上げているとの情報あった。

これは、球磨川河口で青ノリを生産している漁業関係者にも朗報

であり、実証実験を行ってみたらと思う。

●配布された資料の中に、イノシシ被害防止に関するパンフレットが

あったが、これは誰にでも非常に分かりやすく紹介されており、

同様な内容で八代市版を作成して配布したいと思った。

- ◆視 察 日：令和6年1月23日（火）
- ◆視 察 先：山口県岩国市
- ◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

岩国市における近年の観光動態調査を調査した。（令和3年はコロナにより調査無し）

令和元年

概況: 西日本豪雨災害からの回復基調が見られ、観光入込客数は前年比 2.3%増と増加傾向。錦帯橋の入橋者数も前年比 6.2%増と回復を見せていた。

取り組み: 地域連携による観光キャンペーンへの積極的な参加

- ・（「YAMAGUCHI MAGI C」、 「せとうち広島デスティネーション
プレキャンペーン」）
- ・ 体験型観光の充実（地酒舟、蒙刻体験、甲南体験、喫茶舟）
- ・ 広域周遊促進（広島駅発着の錦帯橋定期観光バス運行誘致）

課題: 錦帯橋を訪れた観光バスが微減している。

- ・ 宿泊率が依然として低い（約 90%が日帰り）。
- ・ 周遊観光の促進が必要（「広島〃宮島から近い」という理由で来
岩する観光客増加）
- ・ 滞在時間の延長と消費額の拡大に向けた施策の継続と強化が必要。

令和2年

概況: 新型コロナウイルス感染拡大の影響により、観光事業は大きな打撃を受ける。

取り組み: 感染拡大防止対策の実施（施設休館、イベント中止など）
新型コロナウイルス終息後の観光産業再生に向けた準備

課題: コロナウイルス感染拡大による観光客激減。

- ・ 経済対策と観光誘客施策の両立が課題。

令和4年

概況: コロナ禍からの回復傾向が見られ、観光入込客数は前年比 32%増と大幅に増加。錦帯橋の入橋者数もコロナ禍における過去3年間で最も多い。

取り組み: 団体旅行支援補助金、観光クーポン券発行事業の実施による観光誘客と消費喚起

- ・ イベント支援補助金による近隣地域からの観光需要喚起

- ・謎解きゲーム、ライトアップイベントなどの魅力創出
- ・全国旅行支援「旅々やまぐち割」を活用した観光入込客増

課題:外国人観光客数は令和元年と比較してまだ少ない。

- ・錦帯橋周辺以外への周遊率が低い。
- ・駐車場の不便さに関する意見が多く、改善が必要。

令和 5 年

概況: 入国制限緩和や行動制限緩和に伴い、観光入込客数は前年を大幅に上回る。観桜時の観光入込客数は令和元年と同水準。

取り組み: ウイズコロナ時代の新たな観光振興計画策定

- ・フレンドシップデーの PR による岩国市の認知度向上
- ・岩国錦帯橋空港の利用促進
- ・錦帯橋創建 350 年記念イベントによる周知

課題: 錦帯橋創建 350 年を機に、市内各所の魅力的な観光施設を国内外に発信していく必要がある。

- ・山口県や岩国市の各観光協会、岩国観光プロモーション推進協議会などと連携し、積極的な観光誘客を推進していく必要がある。

【総評】

岩国市は、令和元年には西日本豪雨災害からの回復、令和 2 年には新型コロナウイルス感染拡大の影響と、大きな課題に直面した。しかし、令和 4 年以降は、積極的な観光誘客施策の実施や全国旅行支援の効果もあり、観光需要が回復の傾向に有る。

今後、観光客の増加と消費喚起を図るためには、SNS 等を活用した情報発信や新しい観光体験メニューの開発、市内周遊を促進するための施策や、外国人観光客誘致のための取り組みを強化していく必要がある。また、錦帯橋創建 350 年という節目の年を機に、岩国市の魅力を国内外に発信していくことが重要と感じた。

以上の事を踏まえ、岩国市における観光振興施策について行政視察を行い学ぶことで見えてきたものがある。それは、八代市の近年 5 年間の取組みも、岩国市と同様に災害やパンデミックといった外部要因による大きな影響を受けながらも、観光業は地域経済の再生と観光需要の回復に向けた積極的な取り組みがなされており、関係者の方々の継続した努力が成果として実を結ぼうとしていること。

今後は、民間の観光業者や八代 DMO、並びに商工会等と連携をさらに密にして八代の観光振興に尽力していきたいと思います。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【上村哲三】

- ◆視察日：令和6年1月22日（月）
- ◆視察先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

岡山市では、新規就農推進にむかひ組織体制は、産業観光局にあり、農林水産部、農林水産課が「地域農業企画・振興室」に就農サポートセンターとして位置している。

具体的な内容は、就農に向けたアドバイス、研修のコーディネート、青年等就農計画の策定支援、各種補助金の活用支援等である。

事業概要の内、農業人材マッチング促進支援事業として農業バイトネットワークを利用してアルバイトを雇ったJA組合員である農業者に対して、農業者が支払った傷害保険料の一部を助成するJAとのタイアップ事業であった。

「一日農業 バイト デイワーク」では、スマートフォンやパソコンで利用する求人アプリで、労働者を必要とする農業者と、求職者を1日単位で結びつけるサービスがある。

八代市では、営業規模も大きく、外国人労働者に頼る分が大きいがい、取り組む価値はあるは大きいと感じた。

◆視 察 日：令和6年1月22日（月）

◆視 察 先：岡山県瀬戸内市

◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

近年、瀬戸内市においては、イノシシによる農作物被害が拡大。又、山際の道路や住宅地付近への出没も確認され、イノシシとの突発的な事故を防ぐため「鳥獣被害に強い集落づくりを援事業補助金交付要綱をつくり、捕獲だけに頼るのではなく、人里や農地周辺の環境整備や防護柵の設置」といった対策を合わせた「総合的な対策を行なう事」としている。

瀬戸内市は、市域も狭く、上記市の山間部と比較できないが、鳥獣被害への対応は、概ね理解できた。

◆視 察 日：令和6年1月23日（火）

◆視 察 先：山口県岩国市

◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

岩国市については、コンパクトな地勢にあり、
交通アクセスは、JR山陽新幹線、JR山陽本線、
山陽自動車道、岩国錦帯橋空港等あり、
観光も、城下町資源(歴史)、岩国城、シロヘビ観覧所、
豊かな自然(山川)、温泉、峽流、等あらゆる観
光資源が無数にあり、>にておいては、~~き~~うらや
ましい気持ちになった。

市町村合併後の5ヶ所の観光協会の統合や
集客・滞在数をアップ出来るパンフの作成
や、~~再~~宣伝方法を期待したい。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 金子 昌平 】

◆視 察 日:令和6年1月22日(月)

◆視 察 先:岡山県岡山市

◆調査項目:就農サポートセンターについて

岡山市就農サポートセンターは、新規就農希望者や新規就農者への情報提供や相談対応、研修プログラムなどを通じて包括的なサポート支援体制をより強固なものにするために平成21年1月に設置されている。

新規就農推進にかかる組織体制（令和5年4月1日以降）としては、産業観光局→農林水産部→農林水産課内に「地域農業企画・振興室」が設置され、総合コーディネーター1名を配置し、相談窓口の一本化を図っている。

具体的な取組としては、就農希望者が円滑に農業を始められるように「就農に向けた構想アドバイス」や「青年等就農計画の作成」、「研修のコーディネート」、「各種補助金の活用支援」など、地域農業の視点からの専門的助言や行政支援メニューの紹介など行政からの助言をトータル的に行いながら、農業の基礎知識から実践的な技術までを学べる環境を提供し、就農に必要な手続きや資金調達についての支援を行っている。

特色のある取組として、岡山市農業人材マッチングアプリ促進支援事業を展開されている。この「一日農業バイト デイワーク」は、農業現場の人手不足解消を図るとともに農業に触れる機会の拡充や就農に向けた意欲向上を目的とし、一日単位での働き方を提供するアプリである。

本市においても、少子高齢化社会の進展に伴い、人手不足や担い手不足の問題は喫緊の課題である。また、外国人実習生制度の有利的な差に伴い、他国への就農が進んでいる。本市の全体的な農業の浮揚には、人手不足の解消に向けた取組が重要であり、農業支援アプリの活用は大変参考になった。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 金子 昌平 】

◆視 察 日:令和6年1月22日(月)

◆視 察 先:岡山県瀬戸内市

◆調査項目:有害鳥獣被害の概要とその対策について

瀬戸内市では、主にイノシシ、シカなどの有害鳥獣による農作物や住環境への被害が深刻化している。このような、有害鳥獣被害を防ぐために電気柵や金属柵（ワイヤーメッシュ）を農地周囲に設置してイノシシやシカの侵入を防止し、専門の猟友会や有資格者による罠や銃を使った捕獲活動を行い、鳥獣の個体数管理を徹底している。また、地域住民との情報共有を進め、被害報告があれば迅速に対応できる体制を整えるとともに、廃棄物の適正管理や耕作放棄地の整備など環境管理も行っている。令和4年の捕獲頭数は、猪が（駆除1,096頭・狩猟516頭）、鹿は（駆除211頭、狩猟197頭）であり、統計2020頭である。令和3年度と比較すると捕獲数が大幅に増加しているが、繁殖が進み全体的な頭数が増加したようである。捕獲には防護柵が有利なため、防護柵設置にかかる費用の一部を補助する制度も設けている。捕獲活動は専門の猟友会や有資格者が中心となり、地域住民との連携を図りながら行われている。住民からの被害報告を受け、迅速に対応するための連絡体制を整え、住民にも防護柵設置や環境管理の協力を呼びかけることで、総合的な被害防止策が実施されている。

本市においても、有害鳥獣のさらなる防護柵の維持管理、地域住民の意識向上や新しい防除技術や対策方法の研究・導入を進め、より効果的な被害防止策を展開していくことが求められる。有害鳥獣被害の軽減と農業・生活環境の保全のためには、地域全体での協力が重要であるが、行政としても、具体的かつ継続的な対策が求められている。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 金子 昌平 】

- ◆視 察 日:令和6年1月23日(火)
- ◆視 察 先:山口県岩国市
- ◆調査項目:岩国市における観光振興施策について

岩国市の観光振興施策は、歴史と文化の魅力として、岩国城や錦帯橋等の歴史的建造物や瀬戸内海の美しい景色や、岩国城を望む山々の風景など、自然の魅力を観光資源として活かし、観光客の増加と滞在時間の延長を図ることを目指している。

岩国市全体の観光入込客数は、毎年約300万人(コロナ禍前)が訪れており、山口県を代表する観光地である。令和4年には、徐々に回復基調となり、観光客数は増加しているが、日帰り客が多く、滞在時間の延長やリピーターが少ないことが元来よりの課題である。

そのような課題の対策として、綿帯橋周辺地域魅力向上戦略を立ち上げられ綿帯橋周辺地域では、風土豊かな家屋の景観に整えられており、多様な観光施設や体験施設が整備されている。また、四季に合わせた桜のライトアップ等のイベントの開催やランティア協会等の地域との連携を強化する戦略が取られている。また、綿帯橋創建350年記念式典の開催を迎えるにあたり、岩国観光シティープロモーション推進協議会などと連携し積極的な観光誘客をはじめ、岩国市全体の観光魅力を高め、移住定住施策や特産物など幅広く情報発信の展開とともに地域経済の発展を促進している。

本市においても、八代城や石橋、海・山・川の自然や妙見祭や花火大会など様々な有力な観光資源の市内外や世界に向けた情報発信の強化をはじめ、未来を見据えた、持続可能となるよう、現代のニーズに合わせた新たな内容のイベント開催が求められているように思う。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視 察 日：令和6年1月22日(月)
- ◆視 察 先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

○岡山市就農サポートセンターについて

「岡山市就農サポートセンター」は、平成21年1月に設置。目的は新規就農者・希望者への支援体制を強固なものにするため。産業観光局農林水産部、農林水産課の地域農業企画・振興室に設置している。

同センターは木曜日を除く平日の、午前8時30分～午後5時まで間、JA退職者の総合コーディネーター（会計年度職員）1名が、面談や電話・メールの応対、就農相談会などの業務を行っている。

具体的な支援内容としては、①就農構想（作物と農地）の助言、②研修の開催、③就農計画策定の支援、④各種補助金の活用支援、など。

新規就農希望者の募集策としては、①新規就農希望者体験研修事業、②岡山市農業人材マッチング促進支援事業、がある。

②は、農業者側にとっては人手不足解消を、希望者側には農業就業機会の拡充と就農意欲の向上を目的としている。（求人アプリ「デイワークス」を利用。農業者負担の傷害保険料（体験者等分）の一部を補助）

各種支援事業の直近（R4度）の実績は、①就農相談件数＝219件、②体験研修＝17件、③傷害保険料の一部補助＝19.3万円、④認定新規就農者への助成＝30人、5,694万円、となっている。

利用は地縁者が多いが、農地の確保が最大の課題。「師匠」から譲渡されることもあるものの、50代以上の者にとっては相当の自己資金を要する。

同市が運営する大規模な市民農園は、NHKの番組で取材された。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視 察 日：令和6年1月22日(月)
- ◆視 察 先：岡山県瀬戸内市
- ◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

○有害鳥獣被害の概要とその対策について

平成16年11月、邑久町、牛窓町、長船町が合併し、瀬戸内市となった。人口は3.6万人、面積は125km²。西部の吉井川沿いには農地が広がり、東部は丘陵的な山地で、南部は瀬戸内海に面している。

同市の有害鳥獣の対象は、シカ、イノシシ、ヌートリア、タヌキ、アナグア、ヒヨドリ、カワウ、カモ、カラス類の9種。被害は、イノシシによるものが、4.6haで150万円。カワウ・カモが1,284万円となっていて、魚介類への影響が大きい。(海面の鳥類へは、音波による追い払いを実験中)

H26度～R4度の捕獲数は、イノシシが約9倍(177⇒1,612)、シカが3倍弱(146⇒408)と大幅な増加となっている。その大半はジビエには未利用で、ごみ焼却場の搬入し処理している。

捕獲以外の対策で実効性があるのが、防護柵の設置。防止計画では全長46kmを整備することとしており、R4度までの実績は、個別柵が28.4km、集落柵が6.2kmとなっている。

鳥獣被害防止セミナーを年に数回実施していたが、コロナ禍で中断。R3度からは年1回として再開した。

狩猟免許取得助成については、申請手数料分として5,200円(他免許追加は3,900円)。有害鳥獣被害対策実施隊は、駆除班員30名、市職員9名で構成しており、駆除班員の平均年齢は69歳。隊員の市職員はすべて担当課(産業振興課)の職員である(継続性はない)。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 谷口 徹 】

- ◆視 察 日：令和6年1月23日(火)
- ◆視 察 先：山口県岩国市
- ◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

○岩国市における観光振興施策について

同市は市長選挙戦(1/28 開票)の真っ只中。1市6町で合併した岩国市は、人口12万7千人、面積は873㎢と、本市より一回り大きい。

臨海には工業地域、海上自衛隊、米軍基地などがあり、錦川流域には錦帯橋、城下町のほか景勝地等が点在。昨秋には「池の水全部抜く(テレ東)」、「ブラタモリ(NHK)」が放映され、観光客の増加につながった。

観光客はコロナ禍前には年間3百万人台で推移していたが6割減。R4年は180万人弱と、回復傾向。R5年の錦帯橋入橋者数は53万人(前年比16万人増)を見込む。世界的観光地の広島県宮島からの立寄る、初回の日帰り客が多いものと認識している。外国人の誘客にもつなげるため錦帯橋の世界遺産登録を目指している。(3/23には350年記念、森高千里コンサート)

日本酒の産地であり、5つの酒蔵がある。獺祭、雁木、金雀40%(IWC最高賞)などファンが多い。山口・広島県民に人気の「いろり山賊」もある。

今後の取組としては、山口市が「今年行くべき52か所(NY紙)の3番目に選定」を機に、全県連動して誘客を図る。市役所にシティプロモーション課を設置し、旧市町ごとの観光協会を連帯化。都庁の無償ブースでのPR活動・特産品販売、錦帯橋と周辺の桜のライトアップの継続。城下町の電柱地中化、下水路・駐車場の整備などにより滞在時間の延伸・経済効果の向上。等々、観光行政に精通の山本観光振興課長は話した。

経済企業委員会 行政視察所見

委員名【 村川 清則 】

- ◆視 察 日：令和6年1月22日（月）
- ◆視 察 先：岡山県岡山市
- ◆調査項目：就農サポートセンターについて

岡山市の農家戸数は8,498戸で、本市農家戸数の約2.5倍であり、果樹栽培・野菜栽培のほか花き・畜産業など多様な農業が営まれている。特に白桃・マスカット・ピーオーネなどの果物は全国的に有名で、売上3億超の農家もあるようである。その岡山の農業に興味を持つ就農希望者に対して、それを支援するさまざまな事業を展開している。

サポートセンターは、新規就農希望者及び新規就農者への支援体制をより強固なものにするためにJAと共同で設置しているもので、具体的には栽培作物や農地の選定などの就農に向けたアドバイスや研修のコーディネート・青年等就農計画の策定支援・各種補助金の活用支援などを行なっている。

65歳以下の就農希望者を対象に行なっている新規就農希望者体験研修事業は、市独自の事業である。また県の事業で公募制による農業体験研修、国の事業で農業実務研修などがあるが、いずれも厳しく審査を行なっているようである。特に最近の資材高騰もあり、自己資金不足や圃場のあてがないなどは落とされる大きな要因になるし、準備

This image shows a blank sheet of white paper with ten horizontal dashed lines, typical of primary-ruled notebook paper. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page. There is no handwriting or other markings on the paper.

- ◆視 察 日：令和6年1月22日（月）
- ◆視 察 先：岡山県瀬戸内市
- ◆調査項目：有害鳥獣被害の概要とその対策について

瀬戸内市においても、農山漁村における過疎化や高齢化による耕作放棄地の増加等に伴い、鳥獣による農作物被害が増加している現状にある。イノシシ・シカの捕獲頭数は平成26年に343頭だったものが、令和4年には2,020頭とこの10年で約6倍に増えている。また本市では聞いたことはないが特定外来生物のヌートリアの被害も確認されている。さらにカモ・カワウによるノリ被害も出ているそうである。

その対策、特に捕獲の面で低調なのは、以前と比べ集落をまとめるリーダーが不足しているのが大きな要因であるという認識のようである。そこで個別柵と合わせて、集落ごと電気柵で囲う事業も展開しているが、これがかなり有効のようである。

瀬戸内市有害鳥獣被害対策実施隊を結成し、駆除班員30名と担当課職員9名で行っているが、駆除班の「高齢化」が大きな問題となっている。

地元の大学と提携し電波（電磁波？）による効果を実証中とのことだが、近距離でないと効果が期待できないということである。本市でも平野部において、特に路地野菜へのカモの被害が大きく、緑色のレーザーを使った実証も行われているが、これらを合体させて何かできないものかと素人感覚で考えるところである。

なおイノシシ・シカなどの肉、ジビエについては個体の処理場がないので利用することはないそうである。

- ◆視 察 日：令和6年1月23日（火）
- ◆視 察 先：山口県岩国市
- ◆調査項目：岩国市における観光振興施策について

岩国市は平成18年に一市六町一村で合併して誕生した自治体で、五つの観光協会がある。当初、協会の合併も模索したようだが、元々旧岩国市観光協会は一般社団法人であり、その他は商工会の中の協会ということで、「観光」に対する意識が違うといったところからか諦めた経緯があるそうである。

岩国市は毎年約300万人の観光客が訪れる山口県を代表する観光地であるが、その9割は日帰りでありまたリピーターが少ない状況のようである。そこで近隣の世界遺産である厳島神社（宮島）とタイアップし、いわゆるコバンザメ商法を展開しているそうである。また東京都庁にある無料のスペースにおいて特産品をPRし、誘客も展開しているそうである。

外国人観光客は毎年2～3万人程度で推移しており少ない状況であるが、外国人は長期の休暇を取り旅行するので魅力があり、インバウンド増加を目指し、案内板の多言語化やQRコードによりスマホで自国語に誘導する方法を進めていきたいとのことである。

これからはコロナが収束し、日本人観光客やインバウンドの増加も期待される。本市においても秘境五家荘や日奈久温泉、石橋など外国にはない観光資源が多くあり、さらには球磨川や八代海など新たな発想で開拓すれば、いろいろな可能性を秘めている気が

してならない。DMOを中心に官民あげて、さらには議会も積極的に取り組んでいかな

ければならないと考える。